

第八一號

[illegible]

副官ヨリ技術本部長へ通牒

首題破壊筒五月二十四日附陸技本甲第三四八  
號上申ノ通定メラクヤニ付該同面(概説共)

ニハニ部送付セラレ度(普第三九三三號 昭和五年六月十二日)

(右送付アリタル後尤未決行相成度)

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題破壊筒別紙同面ノ通定メラシニ付該同  
面(概説共)部送付ス

普第四七六五號

昭和五年七月十一日

園東軍行ニ( )内ヲ別紙配賦表ノ通ニ付ルコト

附屬品送付済

昭和五年八月二十九日

1940

極秘

爆破用火藥火具

配賦表

部 監 總 育 教															工	築	技	兵	參	兵	配								
習志野學校	熊本	豊橋	仙臺	自動車學校	重砲兵學校	野戰砲兵學校	通信學校	工兵學校	騎兵學校	步兵學校	砲工學校	學校久留米	士官盛岡	豫備士官學校	豫科士官學校	士官學校	本學部	城部	術部	兵器部	謀略部	兵器部	配賦箇所						
																							內譯配賦部數計						
九																													
關															臺灣軍	第十九師團	第八師團	第五師團	第三師團	第二師團	配賦箇所								
佳木	密山	小崗	東子	孫吳	嫩江	齊哈爾	海拉爾	北安	牡丹江	哈爾濱	新賓	野戰兵器廠	兵器部	兵器部	工兵隊	兵器部	電信隊	兵器部	出張所	兵器部	出張所	兵器部	內譯配賦部數計						
那 支 北							軍 遣 派 那 支															配賦箇所							
第二十六師團	第二十一師團	駐蒙軍	第十二軍	第一軍	野戰自動車廠	野戰兵器廠	兵器部					第四十師團	第三十九師團	第三十四師團	第三十三師團	第二十二師團	第十五師團	第十三軍	第十一軍	野戰自動車廠	野戰兵器廠	兵器部	內譯配賦部數計						
							三																						
																						摘							
																						要							

爆 破 用 火 藥 火 具

配 賦 表

[illegible]

1942

圖面添付

陸校本甲第三四八號

爆破用火藥火具九九式破壊筒制定ノ件上申

昭和十五年五月二十四日

陸軍技術本部長 多田 禮吉

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

首題破壊筒制定セラレ度左記圖書相添へ上申ス

左 記

- |   |                 |       |       |   |
|---|-----------------|-------|-------|---|
| 一 | 爆破用火藥火具九九式破壊筒圖面 | 一     | 部（五枚） |   |
| 一 | 同               | 概説    | 二     | 部 |
| 一 | 同               | 取扱説明書 | 二     | 部 |
| 一 | 爆破用火藥火具細目名稱表中追加 |       | 二     | 部 |



陸

軍

1943

九九式破壊筒

概説  
審査経過ノ概要



昭和十五年五月  
陸軍省  
陸軍技術研究所



九 九 式 破 壊 筒 概 説

用 途

九九式破壊筒ハ主トシテ鐵條網ヲ爆破シテ突撃路ヲ開設スルニ用フ

構造及機能

九九式破壊筒ハ管頭三、管体六、點火具三箇ヲ以テ一組トシ箱内ニ收容セルモノニシテ其ノ全重量約三三斤（本体二五斤、箱八斤）トス

(一) 管頭ハ徑<sup>四二</sup>五<sup>五</sup>耗、長サ一〇五耗ノ彈頭形ニシテ管体ノ前<sup>端</sup>ニ接續シ障礙物ヘノ挿入ヲ容易ナラシム

(二) 管体ハ引拔鋼管（徑三五耗、肉厚二耗六、長サ一米一五）ノ兩端ニ接續ねぢヲ附シ内<sup>部</sup>ニ二號淡黃藥ヲ熔填シタルモノニシテ障礙物ノ深サニ應ジ任意長ニ接續シ使用スルモノトス

(三) 點火具ハ破壊筒ノ點火ニ用フルモノニシテ体、引網、安全栓、點火管（二箇）ヨリ成リ使用時ハ管体端末ノめねぢニ螺著シ又格納及運搬時ハ之ヲ管頭ニ螺著シテ點火管部ヲ保護シタルモノヲ更ニ防濕ノ爲收容筒内ニ收納シ密閉ス

點火具ハ引綱ノ牽引ニ依リテ二箇ノ點火管ヲ同時ニ發火セシメ導火藥ニ依ル約七秒間ノ  
延期時間經過後破壞筒ヲ爆發セシムルモノトス

九九式破壞筒ハ歩兵及工兵ノ使用ニ適シ鐵條網及樹枝鹿砦ニ對シ幅約三米ノ突擊路ヲ開設  
シ得ルモノトス



九九式破壊筒審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

支那事變ノ經驗ニ基キ歩兵ノ使用ニモ適スル障礙物破壊筒ノ必要ヲ認メ昭和十三年九月審査ヲ開始ス（昭和十三年八月近接戰團兵器研究委員會決議）

二、審査経過ノ概要

(一) 昭和十三年九月九日九二式爆破管ヲ基礎トシ設計ニ著手ス

(二) 昭和十三年十月簡体及點火具ヲ別簡ニ試製シ部内ニ於テ試験セル結果簡体ハ其ノ接續部ニ又點火具ハ導火藥ノ充填法ニ就キ改正ノ要アルヲ認ム

又同月簡体ヘノ爆藥充填法ニ付キ陸軍造兵廠東京研究所ニ研究ヲ委託シ成案ヲ得

(三) 昭和十三年十二月前項ノ改修ヲ完了シ且爆藥ヲ填實セルモノニ付富津射場ニ於テ實爆及小銃彈ノ命中ニ對スル安全度試験ヲ行ヒ次テ天伯原ニ於ケル近接戰團兵器研究演習ニ供試セル結果威力十分ニシテ安全度亦良好ナルモ點火具ノ構造及材料ニ付研究ノ要ヲ認ム

(四) 昭和十四年三月運搬上ノ便ヲ顧慮シ簡体一節ノ長サヲ從來ノ二米三〇ヨリ一米一五

ニ改メタルモノニ付部内ニ於テ試験ノ結果其ノ成績良好ナルヲ認ム

(五) 昭和十四年四月八柱演習場ニ於テ第三項ノ改修ヲ經タル點火具ニ付キ試験セル結果構造機能適當ナルコトヲ認ム

(六) 昭和十四年五月八柱演習場ニ於テ各部ノ改修ヲ經タルモノニ付構造機能及爆破威力ノ綜合試験ヲ實施セル結果機能ノ一部ニ修正ヲ加フレバ制式兵器トシテ適當ナルコトヲ認ム

(七) 昭和十四年八月前項ニ依リテ修正シタルモノヲ製作シ步兵學校及工兵學校ニ實用試験ヲ委託セル結果實用價值十分ナルモ點火具中一部ノ改修ヲ必要トスル判決ヲ得タリ  
(試験報告抜萃參照)

(八) 昭和十四年九月前項ノ意見ニ基ク點火具其ノ他ノ改修ヲ實施ス

(九) 昭和十四年十月關東軍ニ於テ實施セル近戰兵器研究演習ニ供試シ良好ナル成績ヲ得  
(十) 昭和十四年十二月一ノ宮射場ニ於テ前記委託試験後ノ改修品ニ付試験ヲ實施シ成績良好ナルコトヲ認ム

以上ニ依リ本破壊筒ハ所期ノ性能ヲ具備シ制式兵器トシテノ價值十分ナルヲ認メ昭和十五年一月審査ヲ終了ス

陸 軍

歩兵學校委託試驗記事抜萃

昭和十四年九月四日  
陸軍歩兵學校

一、判 決

試製九九式破壊筒ハ威力十分ニシテ取扱九二式破壊筒ニ比シ便利實用ニ適スルモノト認ム

但シ左記意見ノ通所要ノ改修ヲ希望ス

二、意 見

意 見 及 希 望

當 部 ノ 處 置

一、點火用拉繩ハ尙細クスルヲ可トス

同意シ得ズ

二、拉繩蓋ヲ接續ねちヨリ二纏乃至二纏五耗長カラシノ之ニ

爆藥ノ雷管孔ヲ一箇ノ筒狀

「ツマミ」部ヲ設ケシメ點火管ヲ管体ニ裝置スルニ際シ接

ニ擴大シ以テ上記ノ缺點ヲ

續ねちト廻轉ニ伴フ點火管ノ捻轉ヲ豫防スル如ク修正ヲ要

改修ス

ス

三、拉繩ト摩擦藥ヲ連結シアル細糸ヲ一層太クスルヲ可トス

細糸ノ徑ヲ増大ス

工兵學校委託試驗記事拔萃

昭和十四年八月  
陸軍工兵學校

一、判 決

九九式破壊筒ハ實用價值十分ナルモノト認ム

但シ點火具ハ一部分ノ改修ヲ要ス

二、意見及希望

意 見 及 希 望

當 部 ノ 處 置

一、雷管ノ構造ハ點火ノ確實及危害豫防ノ顧慮上ヨリ更ニ  
堅牢ナラシムルヲ要ス

本試験ニ擬製點火具五箇實物二箇ヲ使用セシニ擬製三箇  
ハ接續ニ方リ切損セリ

點火具ヲ接續スルニ當リ先ヅ雷管ヲ雷管孔ニ挿入ス此ノ  
際雷管ハ約半分挿入ス次デ外筒ヲ管体ニ螺入シ殘半分ヲ  
挿入ス

此ノ際外筒ト管体トノ螺會圓滑ヲ缺キ且内筒ト外筒ノ摩

擦藥ノ雷管孔チ一箇ノ筒狀  
ニ擴大シ以テ上記ノ諸缺點

撥大ナルモノアリ爲ニ外筒ノ廻轉ト共ニ内筒又廻轉セン

ヲ改修ス

トシ遂ニ既ニ挿入シアル雷管部ヲ支點トシ振レ切損セル  
モノト判斷セラル熟練セサル兵ヲ作業手トシ夜間ノ爆破  
作業ヲ行フコト難カラズヲ以テ甚ダシク危險ヲ生ズルノ  
ミナラス遂ニハ接續不可能ニ至ルヲ以テ雷管ハ更ニ堅牢  
ニ製作スルヲ要ス

二、管体端ニ防濕ノ爲錫箔ヲ附シアルモ本爆藥ノ性質上ヨ  
リ其ノ必要ナカラン之ガ除去容易ナラズ且雷管ノ挿入ヲ  
妨グルコトアリ

錫箔ヲ除去ス

1951

参一七三三



陸軍

陸技本甲第四六六號

爆破用火藥火具九九式破壊筒圖面竝ニ概説送付ノ件

昭和十五年七月十日

陸軍技術本部副官 堀部 武雄



陸軍省副官 川原直一 殿

六月十一日附陸普第三九三三號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ概説

(圖面五枚) 概説壹枚) 各貳百貳通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課ヘ直送可致ニ付承知セラレ  
度